

事業名	漁業資源対策研究
予算区分	水産研究費(県単)
事業実施期間	令和6年(継続実施)
担当者	木本翔、住友寿明、石川陽子、三好亮徳、松本一樹、藤岡保史、 渋江文、丸龍岬太、立石岳人
共同研究機関等	なし

〈目的〉

クラゲが大量発生すると、漁業被害をもたらすことがあるため、クラゲの発生状況を把握することを目的とし、漁業資源対策研究の一環として、クラゲの個体数を調査した。

〈方法〉

播磨灘海域2定点、紀伊水道海域6定点、海部沿岸海域1定点で、3～10月に調査を実施した(図1)。各調査定点において、調査船「とくしま」を5ノットで5分間直線曳航し、船上の左舷から調査員が目視で確認したクラゲの数をカウントした。クラゲの個体数と調査定点数から、各海域あたりのクラゲ密度を算出し(クラゲ密度=クラゲ個体数/調査定点数)、昨年及び平年の海域別のクラゲ密度を比較した。なお、平年値は直近5年間(2019～2023年)とした。

〈結果〉

各海域における今年、前年、平年のクラゲ密度を図2に示した。

〈今後の課題〉

クラゲのカウントは目視で実施しているため、風浪や濁りの影響を受けてデータの正確性にばらつきが生じており、定量的なデータを収集できていない。

〈次年度の計画〉

継続する。

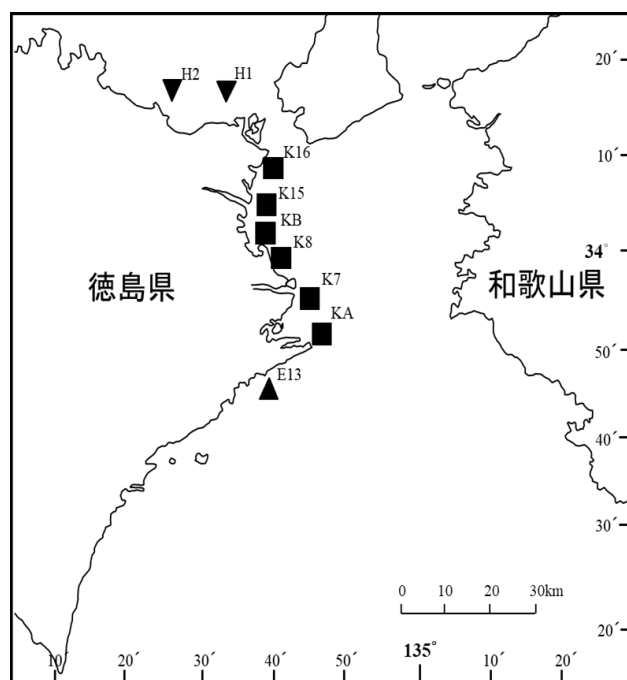


図1 調査定点

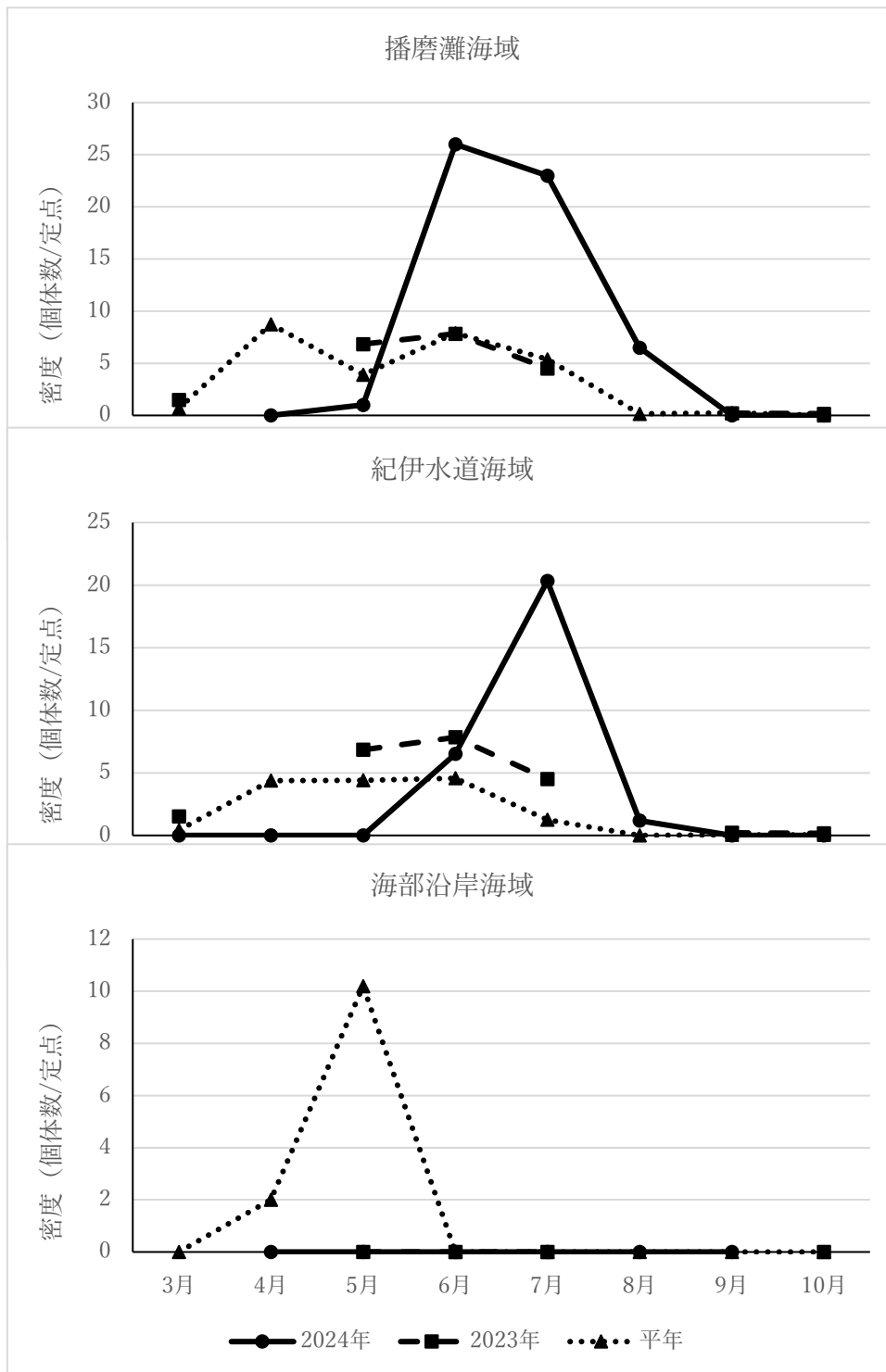


図2 各海域におけるクラゲ密度